

強者の戦略

【はじめに】

センター試験まで残り約2か月半となり、本番に向けて受験生のみなさんも追い込みに入っていく時期になりました。実際に授業をしていると、夏休み前とは違い、受験生の顔つきも引き締まってきました。

さて、今回の予想問題ですが、7月の参議院議員選挙の結果を踏まえて出題したのですが、答案の作成はいかがでしたか？字数が400字に比べて少なく、書きやすい内容ですが、国会と内閣の関係のどこに力点を置くかが答案のポイントになります。ヒントは、内閣立法と衆議院の優越を考えれば、何となく答案の作成するポイントが見えてくると思います。

それでは、解答・解説にいきます。

【解答例】

衆議院で多数の議席を占める与党が、内閣を構成し、国会に議案を提出する。「ねじれ」の場合、参議院で野党が過半数の議席を占めるため、内閣が提出した議案に対して、審議拒否や否決することになる。このため、国会の会期内での成立が難しくなり、継続審議や廃案に追い込まれる。そのため、政府・与党は野党との修正協議に応じて、譲歩しなければならず、また、委員会の質疑時間の延長を求められるなど、国会運営にも影響が出る。(199字)

【解説】

1. 「ねじれ」とは？

「ねじれ」とは、衆議院と参議院で与党と野党の議席数が逆転している状態。衆議院で多数の議席を占めると、内閣を構成し与党となる。これに対して野党は、衆議院で与党でない政党のことをさす。つまり、内閣が提出した議案は、与党が提出したものといえ、野党は基本的に反対する。このため、国会の議決がスムーズにいかず、成立までに時間がかかる。

2. 過去の「ねじれ」

「ねじれ」はこれまで何回か起こっている。そこで、これまでの「ねじれ」についてみる。

① 1989年参議院選挙後

この選挙では、自民党の竹下内閣下のリクルート事件や消費税、宇野宗佑総理の女性問題などが焦点となり、野党の日本社会党が土井たか子委員長による活躍で「マドンナ旋風」を巻き起こし、与野党逆転を収めた。しかし、敗れた自民党は参議院の第一党は守った。

② 1998年参議院選挙後

第二次橋本内閣において、首相や閣僚が恒久減税について発言が迷走したことや、選挙区で2人擁立しての共倒れが続出したことなどから、自民党は敗北し、議席が過半数割れした。しかし、敗れた自民党は参議院の第一党を守った。

③ 2007年参議院選挙後

第一次安倍内閣において、郵政造反組復党問題や年金問題、相次ぐ閣僚の不祥事などが重なったことを主な要因として、自民党が歴史的な大敗を喫した。これにより、自民党は参議院の第一党から滑り落ち、民主党が追い風を受け議席を伸ばし、参議院の第一党となった。

④ 2010年参議院選挙後

菅首相が消費税の増税に触れ、さらにその発言が二転三転したことなどで支持率が急落したこともあり、民主党は大敗を喫した。しかし、参議院の第一党は守った。

3. 「ねじれ」と衆議院の優越

衆議院の方が任期が短く、解散がある。さらに、衆議院は参議院より定数が多くなっているため、国民の意思をより強く反映するようにできている。こ

強者の戦略

の性格の違いから、政治のいろいろな面で衆議院は参議院よりも強くなっている。このうち、法律の議決は、参議院で否決されても、衆議院で3分の2以上の再議決があれば、衆議院の意見が通る。これに対し、予算の議決、条約の承認、内閣総理大臣の指名は、参議院で否決されて、両院協議会を開いても意見が一致しない場合は、衆議院の意見が通る。このことを絶対的優越ともいう。ということは、ねじれが問題となるのは、法律の議決である。

そこで、過去のねじれで、法律の議決が問題となった事例を挙げておく。

①補給支援特措法（2008年1月11日）

衆議院で可決され、参議院で否決されたが、衆議院で3分の2以上の再可決で成立した。

②税制関連法（ガソリン税等の暫定税率復活）（2008年4月30日）

衆議院で可決され、参議院は送付後60日以内に議決をしないかったため、否決したものとみなし、衆議院で3分の2以上の再可決で成立した。

予算には関連法が数多くある。例えば、特例国債の発行においても、特例法の制定が必要である。予算案が可決されても、関連法が成立しなければ意味がない。つまり、衆議院の優越があるといっても、「ねじれ」により関連法が成立しなければ、予算を執行することができない。ここに、「ねじれ」の根本的な問題がある。例えば、上の事例②で、与党が衆議院で3分の2の議席がなければ、何が起きるのか？法律案が成立せず、廃案になってしまい、予算が執行できなくなる。

そうならないために、政府・与党は野党に対し、与野党協議を行ったり、法案の内容を譲歩するなど、野党に配慮した国会運営をせざるをえない。昨年、こうした状況を「決められない政治」と、マスコミで揶揄されていたのは記憶に新しい。

4. 最後に

2012年12月、衆議院総選挙で自民党が圧勝し、政権獲得を果たした。これにより「ねじれ」は解消されたが、「ねじれ」は弊害ばかりではない。例えば、国会における与党の暴走を防ぐことや、野党の意見も取り入れられるなど、良い点もある。

実際、2013年7月の参議院選挙で自民党が圧勝し、参議院の第一党になった。これにより、安倍内閣は、今の臨時国会で、特定秘密保護法案、国家公務員改革関連法案、国家戦略特区法案、国民投票法改正案など、数多くの法案を提出し、今国会の成立を目指している。特に、特定秘密保護法案は、与野党の議員から反対や慎重な意見が出ているが、政府は早期成立を目指している。「ねじれ」が解消したことは、国会運営上、良いことではあるが、政府・与党の暴走になることは問題である。

安倍内閣は、景気回復の兆しや安定した政権運営で、高い支持率を背景に強気の国会運営をしている。しかし、来年4月からの消費税増税や憲法改正など、消費の低迷による景気の悪化、集团的自衛権の解釈変更など、支持率が低下する懸念材料もある。しばらくは、国政選挙がないので、「ねじれ」になることはないが、安倍内閣の動向には注視しなければならない。

受験生のみなさんは、新聞やニュースで政治の動向をみておきましょう。来年の入試問題で、時事問題として出題される可能性はあります。特に、私大や国公立大二次試験では、比較的秋口までの内容が出題されることもあるので、関係する受験生は気にしておくように。